

防衛大学校本科第16期学生及び理工学研究科第7期学生 入校式における学校長式辞（昭和43年4月5日）

本日、小幡防衛事務次官^{注(1)}、牟田統合幕僚会議議長^{注(2)}をはじめ、内外多数の来賓各位並びに父兄の皆様方をお迎えして、本科第16期学生、理工学研究科第7期学生の入校式を挙行いたしますことは、私の衷心から喜びとするところであります。

入校生の諸君、まずもって栄えある御入校に対しお祝いを申し述べます。研究科の諸君は学窓を出てから陸・海・空の部隊・機関等において、おおむね数年間実務に従事しておられ、今回特に選ばれて入校されたのであります。諸君は、今後の2年間に理工学の専門分野の研究に従事されるわけです。学問の研究は常時心掛けることが必要であり、しかも終わりは無いといわれます。われわれは生涯



第2代学校長 大森 寛

その志を捨てるべきではありません。勤務上のいろいろな要請から心ならずも学問の道から遠ざかっていたであろう諸君にとって、今後の2年間は得難い機会であると申さねばなりません。諸君は、本校の優れた先生方から日夜にわたり直接指導を受け得ることになりました。恵まれた境遇に感謝し、最善の努力を傾けて立派な成果を上げるよう切望いたします。

真新しい制服に緊張の面持ちの本科の諸君、住みなれたわが家を離れ、学生舎に数日を過ごされた感想はいかがですか。521名の諸君が、北は北海道、南は鹿児島からこの小原台に來られました。みずから本校を選び競争試験に打ち勝ち、本校に学ばんとしてこの式場に臨んでいることと思います。私は諸君を心から歓迎し、かくも多数の優れた若人を迎えたことに限りない喜びを感じています。小原台は海拔85米、学生歌にあるように若人の城です。紺碧の海に囲まれ、東に房総の山々を望み、西に富嶽を仰ぐ学びの丘です。この俗塵から離れた別天地こそ、今後4年間の生活を通じて大いに学び、かつ修練する道場でもあります。若い諸君の縦横の活躍を希望してやみません。

本校における諸君の生活は、主として学問の修得に向けられます。低学年次は一般教

注(1) 小幡久男

注(2) 牟田弘國空将

養を主とし、高学年に進むに従い、漸次理工学の専門分野に進むこととなります。これらの一般的学問と同時に、諸君は軍事専門的教育を受けられます。その内容は防衛学と呼んでいる分野と訓練であります。訓練は、主として夏期等勉学に支障のない時期に実施いたします。本校においては体力・気力の錬成を重視しています。また校友会活動としての文化的活動、体育、競技等も大いに奨励しております。学問も訓練や校友会活動も、諸君の本校における四六時中の生活は、規律ある団体生活を通して行われます。諸君は学生隊に編入せられ、その規律に従うことを要求されます。学生隊は指導官の指導を受け、学生の自主自律によって運営されます。学生隊生活において、諸君は他動的な生活に流れることを戒め、まずみずから自由に考えて個性を伸ばし、創造力を培かうよう希望いたします。また同時に規律の尊さを知り、責任を^{わきま}弁え、服従の体験を通じて統率者としての資質を養うことが肝要であります。本校における生活は、諸君の昨日までの生活とは趣を異にするでしょう。しかし慣れるに従い、次第に実りのある楽しいものになると思います。

さて新入生諸君、私はここで本校教育の目的について述べなければなりません。本校は、幹部自衛官たるべき者を育成する学校であります。幹部自衛官は私が言うまでもなく国防の担い手です。わが国の防衛は将来諸君の双肩に担われるのです。諸君はわが国の発展に大きな役割を果されるわけです。私は、諸君が大いに学問の研鑽に励み、知性を高め、視野を広げることを希望しています。また本校の教科内容は理工科系の大学と比較し、その内容程度において決して遜色のあるものではありません。学問の道は、真理の追及を通して人格を陶冶し、ひいては人類の福祉に貢献すべきものであります。従って何になるためにするという考え方は、必ずしも妥当なものではありませんが、本校は諸君に科学者・技術者になることを求めているものではありません。本校において高い学問的教育を実施している所以のものは、新しい時代の国防の担い手が、高い知性に裏づけられた幅広い教養を必要とするからであります。幹部自衛官は自然科学、人文・社会科学等広範な知識が必要なのです。部隊指揮官は地位が高くなるに従い、理工学的知識と共に高度の人文・社会科学的教養をも備えなければなりません。本校が理工学教育に重点をおいているのは、人文・社会科学を軽視しているのではなく、理工学教育は、特に若い時期に修得するのが効果的であると判断しているからであります。本校における人文・社会科学系の内容は必ずしも充分ではありませんが、自衛官としての勤務を通じ自学研鑽によってこれを補うことに期待しているからであります。

また本校において、一般大学レベルの教育と軍事専門的教育とを実施しているのは、異質な教育を行っていると考えべきではなく、立派な幹部自衛官の育成には、高い学問的教養と同時に軍事専門的資質が必要だからであります。ここに幹部自衛官たるべき者を育成する本校教育の特質があるわけです。従ってこの両者は、教科内容・実施時間等において調和を保ちつつ、^{こんぜん}渾然一体化の実をあげるべきものであると考えています。

こういう観点から学生隊の活動は、部隊的行動を中心とするけれども、それは決して知的活動を阻害したり勉学意欲を低下せしめるものであってはなりません。反面、学問の修得は単なる知識の収受であってはならず、それを通じて自衛官としての資質の向上に寄与すべきものであります。新しい時代の国防の担い手は、立派な社会人であり、同時に立派な武人でなければなりません。本校の教育方針は、こういう基礎の上に立っているのであります。

最後に、国防すなわちわが国の防衛について、簡単に所見を申し述べます。いかにすればわが国の平和と安全を実際に守りうるかという問題です。平和は人類の理想です。われわれは、この理想の実現にあらゆる努力を傾注すべきです。しかし大切なことは、わが国の平和を脅やかす現実の事態に目をおおってはなりません。理想を求めんとするの余り、国際情勢の現状に対する希望的判断に甘んずることは真実を見誤ることになります。ベトナムの現況は申すまでもなく、第2次大戦後の50になんなんとする武力紛争の勃発は、雄弁に国際情勢の不安定さを物語っています。わが国がいつ渦中に巻き込まれないとも限りません。われわれが祖先から受け継いだこの日本の国をより良いものにして、子孫に伝えるのは現代に生きる者の責任です。そしてそれは、わが国が他国から侵されない独立の存在を保っていることが前提です。

一部に防備なくしてわが国の安全が保てるという議論をなす人があります。また、平和憲法を守っている国は侵略される筈はないという考え方もあります。これらは何等かの特別な^{こんたん}魂胆をもってする議論であり、故意に世界の現実を無視しようとするものであると言わざるを得ません。われわれは、理想は理想としてその実現に努力するとともに、常に現実を正視し、万全の対策を講じておくべきであります。

長年にわたる人類の歴史は、直ちに平和時代の到来を予告するものではなく、むしろ反対の事実を教えていることを忘れてはなりません。眼前の事象に惑わされることなく、大局的に判断することが必要です。新入生の諸君の中には、この問題に関し必ずしも明確な所信をもっていない人があるかもしれません。現在の世論を思うとき、決して諸君を責めることは出来ません。何が正しいか、すなわち真実を求めるのは青年の責務です。あらゆる機会を利用し、先輩や指導官に対し、どしどし疑問をただすべきです。そうすることによって、逐次納得のゆく正しい結論に到達し得るであろうと思います。私は諸君が大いに勉学に励むとともに、わが国の平和と安全を守ることが貴重な生涯を捧ぐるに足る自己の使命である、という確信を養うよう努力せられることを心から念願しております。

これを以て式辞といたします。